



ほんべつ 議会だより

No.81

平成29年5月1日発行



夢と希望をのせ こども園がスタート

認定こども園ほんべつ オープニングセレモニー（南3丁目）

発行／北海道本別町議会 編集／広報広聴常任委員会 北海道中川郡本別町北2丁目4番地1

TEL 0156-22-8123
FAX 0156-22-2147



第1回定例会

本別町介護福祉士修学資金貸付条例の制定等を可決

平成29年第1回定例会は3月7日に開会し、一般会計他8会計の補正予算、本別町介護福祉士修学資金貸付条例の制定、本別町新規就農者等に関する条例の制定などを審議しました。

審議された内容は次のとおりです。

条例制定

本別町介護福祉士修学資金貸付条例の制定

将来、介護福祉士として町内の介護保険施設等に勤務を志望する者に対して、修学に必要な修学資金を貸付けることで、介護福祉士の確保を図ることを目的とした条例が制定されました。

【制度内容、一部抜粋】

- ①対象者…
 - ア. 本町に住所及び生活の本拠がある者、また、その子
 - イ. 介護福祉士養成施設に在学し、介護福祉士資格取得を目指す者
 - ウ. 同施設を卒業、修了した後、町内の介護福祉施設等で介護福祉士として働く意思がある者

②貸付金額…

月額5万円以内

(他制度との重複受給可)

③償還方法…

同施設を卒業後3年以内に修学資金の総額を償還する。ただし、介護福祉士として本町の介護保険施設等に修学資金の貸付けを受けた期間の2倍に相当する期間在職したときは、貸付金の償還を免除する。

問

町内在住の親戚宅に居住している方も対象となるのか。

答

ア、ウ、全ての条件を満たした方が対象となります。本人が本別町に住所を有し、生活していれば対象になります。

本別町児童発達支援センター条例の制定

心身の発達において特別な配慮が必要な児童及びその家族に対し、総合的に支援するため、本別町児童発達支援センターを設置する条例が制定されました。

現在の支援事業は、中央小学校内でことばの教室として行っていますが、本年10月1日から旧中央保育所に場所を移し、新たに「児童発達支援事業」「放課後等デイサービス事業」「保育所等訪問事業」などの支援事業を追加するものです。

問

この条例制定により、現在、通室されている児童等も旧中央保育所で支援を受けることになるのか。

答

現在の通室者は、幼児13人、児童11人、生徒2人です。

旧中央保育所の改修を行い、10月1日から放課後等デイサービス事業などを追加し、これまで同様に支援を行います。



児童発達支援センターとなる旧中央保育所

本別町新規就農者等に関する条例の制定

本別町新規就農者誘致特別措置に関する条例(平成3年制定)を廃止し、現行の新規就農者奨励金、固定資産税相当額の補助制度に加え、新たに新規就農に向けた体験・研修、就農前の実習(いずれも新規就農者等の認定者及び認定時、原則50歳未満)、また、実習等の受入れ農業者に対する助成策を拡充するため制定されました。

平成28年度各会計補正予算

会計	(補正額) 補正後の額	主な内容
一般会計	(1,458万9千円)	・ふるさと納税事業 ・日ハム応援大使関連事業 (臨時会)
	(3億8,563万8千円) 77億122万8千円	・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業補助金 ・橋梁長寿命化事業 ・勇足小学校大規模改修事業 (定例会)
特別会計	(1,265万9千円) 14億4,620万7千円	一般被保険者療養給付費の増(受診件数の増) (定例会)
	(420万9千円) 1億1,943万2千円	広域連合保険料等の額の確定 (定例会)
	(△50万5千円) 9億7,901万4千円	介護保険料及び介護給付費負担金等の調整 (定例会)
	(△60万4千円) 2億7,591万8千円	執行見込みによる調整 (定例会)
	(△876万6千円) 1億3,016万4千円	町道改良工事延長減による減額 (定例会)
	(△698万4千円) 5億4,952万5千円	浄化槽設置基数の減による減額 (定例会)
水道事業会計	(△483万9千円) 3億4,238万1千円	取水施設災害復旧工事及び量水器購入費確定による減 (定例会)
病院事業会計	(△1,151万3千円) 13億2,871万8千円	執行見込みによる調整、備品購入の事業費確定による減 (定例会)

※第1回臨時会含む △は減額

18回目のナイター議会に 21人の傍聴者

3月14日午後6時から役場3階議場でナイター議会が開催され、4議員より4問の一般質問がありました。



傍聴者アンケートから

問 議会・議員への提言 意見はありますか。

- ・町民、まちづくりに対しての意見が聞けて参考になりました。
- ・平日夜の開催は働いている人は、なかなか参加しづらいのではないのでしょうか。毎回同じ人しか来ていない様な気がします。

答 町内酪農家9戸で法人を設立し、道からの補助金を町が受け、全額を法人へ補助します。
内容は、牛の状態にあった餌を生産し各農家に配送するもので、バンカーサイロ(牧草等を貯蔵する施設)33基の建設や用地整備等となっています。

問 TMRセンター建設への補助
答 TMRセンター建設にかかるとして、約3億円が計上されているが、内容は。

一般会計補正

問 農業大学の卒業生などから、新規就農を希望する方がいると聞くことがあるが、年齢制限の下限はあるのか。
答 年齢の下限は定めていません。農大卒業生等も農業経営開始補助、体験・研修旅費補助等の対象者となります。

問 勇足小学校大規模改修工事
答 昨年の予算審査では、工事費が約2億円前後との答弁であったが、2億6千万円となった経緯は。

答 道の労務単価の値上がり、また、保護者や教職員等の意見から改修箇所を追加しました。実施設計の段階では3億円を超えていましたが、全体を精査し、2億6千万円となりました。

陳情書

平成29年3月定例会に提出された「原発再稼働と核燃料サイクル政策の中止を求める意見書の提出を求める陳情(陳情者 川口志映子氏)」は、総務常任委員会に付託され、閉会中の継続審査となりました。

一般質問

6人の議員から10問（うちナイター議会で4問）



風通しの良い役場組織づくりを

②組織・機構については、昨年明らかとなった、収納業務不適切処理問題を踏まえ、職員間の連携や町民の皆さんから見て解りやすい組織にすべきと思いますが、考え方は。

中野教育長 ③考える会の活動は、町内外の中学校への訪問活動や学校だよりの全校配布などです。関係機関への活動は、本別高校の現状報告や入学生徒募集定員の維持等の要請を行っています。

高橋町長 ①十勝文化の集いなどの受け入れ、大学生のスポーツ合宿など毎年行われて



春の利用開始を待つ御所



行政

町民の皆さんの生活に直結した町政執行を答 住民の暮らしに寄り添った予算を編成しました



大住啓一議員

大住議員 新年度から、新たな町政が執行されますが、以下3点について伺います。
① 予算編成の中で、準骨格予算とした考えは。

③本別高校存続活動の中で、本別高校の教育を考える会の活動内容と町長・教育長が関係機関に対し、どのような活動を行ったのか伺います。

高橋町長 ① 本年が改選期であることから、政策的な事業や新規事業を控え、行政運営上必要不可欠な経費を計上しました。

② 不適切処理が起きたことは反省し、風通しの良い組織づくり、又、これまでの組織編制の考え方を軸にし、町民の皆さんが利用しやすい体制づくりを考えています。



経済

芸術文化、スポーツの交流で地域活性化を答 各種大会、合宿地誘致に積極的に取り組みます



藤田直美議員

藤田議員 合宿地誘致、大会誘致にもっと積極的に、心身の健康づくりとスポーツの振興を図り、芸術や教育文化、スポーツなどを通じて交流人口を増やし、地域の活性化に繋げるべきだと思います。

おり、小中高生や一般の大会の誘致についても関係団体と協議しながら、積極的に取り組んでいきます。

② 社会教育施設は宿泊機能を持っていないので、他の施設で対応し、空き住宅については、合宿を含めた社会教育活動の実施の可能性などについても調査研究をしていきます。

① 誘致活動の考えは。
② 静山研修センターに代わる団地で利用できる宿泊施設も、空き住宅や既存の施設の空きスペースを活用できるのでは。

③ 本別公園内の御所を冬期間も利用できるようにしては。

認定こども園開園に伴う職員、食材等の影響は

答 人材は町内から、購入可能な商品は全て地元発注と聞いています

大住議員 ①開園後の認定こども園の運営にあたっての事務所用品や給食用食材、更に車両の燃料、灯油などの調達には地元からですか。

②町が雇用している保育士は、カトリック学園の正職員になると説明がありましたか。実態はどのようになりますか。

更に開園後新しく職員を地元本別から雇用する考えがカトリック学園にあるのか。

③給食用食材は、28年度において保育所・老人ホーム・病院へ町内商店の店頭価格から3%値引きをして納品をしていますか、新年度からの対応は。

高橋町長 ①教材等は、専門業者から購入しますが、それ以外は、給食用食材を含めて町内の商店に発注すると聞いています。

②こども園に勤務しない職員を除き、全て正規職員とな



4月1日開園した認定こども園

ります。また、運営に必要な人材は、基本的に全て町内の人を雇用していただくということになっていきます。

③3%割引するという契約条項については撤廃し、適正な価格で良い食品を納品していただくよう協議してまいります。



暮らし

地域密着型老人ホーム建設は

答 スピード感をもって対応していきたい



小笠原良美議員

小笠原議員 平成29年度中に供用開始予定の地域密着型老人ホーム（清流町、20床）の建設を先延ばしをしたいとの説明を受けましたが。

①全国的に介護職員が人材不足の中、先延ばしをして地域密着型老人ホーム建設の見通しが立つのか。

②2カ所目の運営はどこに担ってもらえるのか。新たに老人ホームができる場合、現在老人ホームで働いている人の処遇は。

③町内の人材や施設を活用した老人ホーム造りを。

高橋町長 ①第2期構想をまとめで、どの時点で実施をす

るかなど、スピード感を持つて対応していきます。

②2カ所目については、民間、直営含め検討中です。職員の方には、今まで通り本別で働き続けていただけるよう、必要に応じて情報交換しながら対応していきます。

③年内に将来構想をつくり、年明けから住民の皆さんや、関係団体への説明、協議を実施します。



現特別養護老人ホームの様子

新国保制度、負担増となるのか

答 生活に支障、負担増とならないよう責任持った対応も



阿保静夫議員

阿保議員 国民健康保険の運営主体が平成30年度より市町村から道に移行します。その際、保険料が大幅に上昇する市町村があります。本町は道試算で平成27年度比、年約14万7千円から約17万1千円と約2万4千円、16%以上の増です。激変緩和措置（5%の増）後でも7,355円の負担増です。

道では、保険料負担緩和のために、市町村が一般会計から繰り入れることは、各市町村の判断で行われるものとしていきます。本町としても可能な限り、保険料負担の緩和措置を検討すべきと考えますが見解を伺います。



健康運動講習会（平成29年3月）

高橋町長 国は制度改正について①保険料の上昇抑制、②医療提供体制の効率化、③市町村財政負担の解消を挙げています。

しかし、激変、保険料率が相当高くなる時は、町が負担するかは別として、被保険者（町民）の生活に支障、負担増とならないよう、町として責任を持って対応していかなければならないと考えます。

住民・福祉施設の災害計画や訓練の充実を

答 平常時の取り組みにより防災意識を高めていきます



高橋利勝議員

高橋議員 ①本別町における昨年の台風被害による避難割合は。また避難のあり方について町民のみなさんともっと情報を共有する機会を設けるべきでは。

②道は全道の各福祉施設に災害計画や訓練の実施状況を調査していますが、本町の福祉施設の状況は。また災害計画や訓練の充実を図るべきでは。

③豪雨災害時の2次避難所として民間の施設も活用するべきでは。

高橋町長 ①台風7号による避難区域内の避難者の割合は56%、台風11号は60%です。

また、今後は平常時においても広報掲載や、住民、町民への説明会や訓練などを通じ

て防災意識をさらに高めていきます。

②社会福祉施設に対しては、非常災害対策計画に関する自己点検を行い、未確認、未実施の項目がある場合は年内に改善するよう求めていきます。

③調査をして必要な施設の利用可能なところは協力を依頼していきます。



福祉避難所に指定されている養護老人ホーム

仙美里地区にミニコンビニ誘致の検討を

答 町内の人達と連携し、しっかりと対応していきます

高橋議員 コンビニエンスストアセコマは過疎化が進んで商店のない地域で、小型の直営店を展開するとしています。

仙美里地区には商店がなくまりましたが、地元住民はもとより、教育、福祉、まちづくりの施設があることから、その利便性を考えると、仙美里地区にミニコンビニを誘致する考えはないか。

二というのは大変魅力があると思っと思っています。いろいろな情報を得て検討するべきと思うが。

高橋町長 仙美里地区は国道に面したいいい条件にもあることから、しっかりと取り組んでいきます。

高橋議員 若い人や子供たちにとつての買い物場として、コンビニ

今質問のあったこともしっかりと受け止めて協議していきます。

高橋町長 仙美里、勇足、美里別地区については、まちの福祉と暮らしと連携した中で町、商工会、農協と協議会をつくり、買い物難民対策、見守りを含めて福祉の視点からも取り組んで来ました。

今質問のあったこと

もしっかりと受け止めて協議していきます。



商店がなくなった仙美里市街地

運転免許証返納者に対する対策について

答 町内運行バスの利便性の確保に努めたい



山西二三夫議員

山西議員 本町は、運転免許証を自主返納すると、70歳以上の高齢者に対して、住民基本台帳カードの無料交付を行っています。以下について伺います。

①公共交通が不便な地域では車が欠かせません。免許証を返納した場合でも安心して暮らせるよう、免許証を返納した高齢者にタクシー券の補助支援、月1回、片道分、1年間支援しては。

②社会福祉協議会が行っています有償運送サービスは、公共交通機関等の利用が困難な方が受けられますが、高齢というだけでは利用ができません。タクシー代、実費の半額助成を行っては。



地域住民の足を確保する循環バス

高橋町長 ①タクシー券等を助成している自治体もありますが、公平性の面から広く町民からご理解を得られるか、結論づける前に慎重に対応する必要がありますと考えます。

②本町では循環バス、へき地患者輸送バス等があり、65歳以上の町民の方であれば無料となっています。今後も町内運行バスの利用しやすい環境を整えながら、利便性の確保に努めたいと思います。

教育

もしも博士が

就学援助とは…

保護者の経済的理由などで就学が困難となった場合に、助成を行う制度です。対象となるのは、生活保護を受けている世帯の「要保護児童生徒」と税・年金の減免を受けているなど、経済的に援助を受けなければ就学に支障がある世帯の「準要保護児童生徒」です。助成対象は、学用品費、新入学用品費、修学旅行費、学校給食費などです。



就学援助は入学前支給を、またアンケート等の実施を

答 入学準備金の前倒し支給を検討します

阿保議員 町が行っている**就学援助**は、現在入学後の6〜7月ごろに支給されているとのこと。就学援助の一環で支給される入学準備金について、支給時期を前倒しする自治体が増えていきます。①本町も入学準備金の入学前支給を行う考えはないか。

高橋町長 ②アンケート実施以前に、子ども未来課の業務の中で要保護児童対策、就学前情報活用などで連携を深め、相談、学び、生活、就労などの支援を充実強化しながら実態把握の活動を実施していきたいと考えます。

中野教育長 ①本年度は小中学校で462人中64人の認定者となりますが、平成30年度入学者の新入学学用品費を、入学準備金として平成29年度中に前倒しでの支給に向け検討します。



お兄さん、お姉さんと通学する新一年生

子育て世代の教育費負担軽減について

答 学校給食費における多子軽減対策について検討します

藤田議員 教材費や給食費の補助、特に多子世帯への助成など、少子化対策の一環として子育て世代負担軽減施策を展開していくべきだと思えます。義務教育費に限らずすべての教育に係る保護者負担の軽減を図り、経済格差が教育の機会均等を図ると同時に、若い子育て世代を応援していく考えはないか伺います。

高橋町長 ②給食費の無料化は、子どもの教育にとつて良い政策なのか、町村長間でも疑問視され議論になっていますが、子育て支援に向けて、できることであれば多子軽減対策も十分に検討しながら進めたいと思います。

①教材費、修学旅行費の補助について。
②給食費の多子軽減について。

中野教育長 ①本町では就学援助制度を設けており、その中に学校給食、修学旅行費、教材費が含まれています。

支給要件は、保護者の所得が生活保護費支給基準額の1.3倍以内の世帯について支給しています。



おかわりをしておいしそうに食べる子どもたち（中央小2年1組）

一般会計予算は66億8,416万5千円（前年度1.3%減）

平成29年度各会計予算審査特別委員会（小笠原良美委員長ほか10人）は、3月20日、21日、22日に行われ、一般会計ほか6特別会計、2企業会計の予算案を審議し原案のとおり可決しました。

新年度予算編成の重点としては、総合計画及び人口ビジョン・総合戦略並びに各種計画を基軸に据え、勇足小学校大規模改修等のハード事業に加え、優先度の高い子育て支援、地域包括ケアの推進、介護・人材確保対策、農福商連携、空家対策など町民生活に密着したソフト事業にも配慮した予算となっており、全会計をあわせると予算総額は118億9,373万7千円で、対前年度比0.3%の増となっています。主な質疑内容は次のとおりです。

一般会計

臨時雇賃金等

問 臨時雇賃金を見直したとのことだが、金額は。

答 道の最低賃金を参考にし、臨時職員等の賃金を3年に1回程度見直しています。
一般事務職では5%増の改定を行い、1時間当たり786円から820円としています。

コンプライアンス研修（倫理・法令遵守）

問 全職員が研修を受けるのか。

答 正職員、臨時職員、パート職員など、全ての職員を対象とし、2回の開催を予定しています。

防災用資機材

問 防災用消耗品として約24万円を計上しているが、昨年の台風等関連で使用した分を補充するためか。

答 山手町の職員住宅を改修（改修費324万円）し「お試し暮らし住宅」として貸し出します。

答 避難所では、防災用食料を使用しましたが、ライオンズクラブ様からの寄付により補充されています。

答 予算計上分は、アルファード米300食、段ボールベッドなどです。

お試し暮らし住宅

問 庁舎等の修繕として646万円が計上されているが、内容は。

答 山手町の職員住宅を改修（改修費324万円）し「お試し暮らし住宅」として貸し出します。

1週間から1カ月程度の貸し出しとして、移住・定住促進の施策として活用していきます。

その他では、庁舎関係で130万円、職員住宅で192万円です。



お試し暮らし住宅（山手町）

雇用創出調査研究事業

問 農福商連携の取り組み内容は。

答 28年度から加工用トマトの栽培をしており、新年度では栽培面積の増、加工品の販路の研究を計画しています。また、

に取り組むよう検討していきます。

日ハム応援大使

問 費用対効果は不明だが、税金を使うので、なぜ日ハムなのか十分に町民に説明を。

答 応援大使は、日ハムが道と道内の市町村を応援する包括連携協定の取り組みです。
札幌ドームでの物販や日ハムの応援を通して、本町の知名度を高めていくことなどがあり、そこで町の特産品を知っていただけるよう取り組んでいきます。



有原・大累選手等身大パネル（役場1階）

起業家支援

問 誕生記念品の一つとして、起業家支援奨励金を受けた企業から木製品を購入しているが、店舗の所在は。

答 店舗を2回移転しており、改装のため準備中とのこと。

記念品は、滞納なく納入されており、本別で営業したいという意思は担当課で確認しています。

不育症治療費助成事業

問 不育症治療費助成内容は。

答 道が本年4月から本町も道に準じた内容とし、道が認定した助成対象者が支払った費用から、道の助成分（10万円）を控除した額に対し、15万円以内で助成します。

新公立病院改革プラン

問 町立病院改革推進にかかる経費580万円の内容は。

答 29年度に新公立病院改革プランを作成します。内容は、地域医療構想を踏まえた役割の明確化、経営の効率化などとなっています。

また、同プランと地域包括ケア推進構想の連携をどうするかなど、本町の将来の福祉、介護、医療をどのようにして包括的に進めていくか研究するものです。

勇足コミュニティセンター

問 冬期間は旧勇足駅舎のトイレが利用できないため、周辺で用を足す方がいる。自治会から、春先の清掃作業が大変と聞いているが。

答 24時間トイレ（共栄）までの案内看板の設置の検討など、自治会と協議した経過があります。

また、過去にはトイレ周辺の環境整備を公園作業員が行った経緯がありますので、地域の方が不快にならないよう検討します。



24時間トイレがある観光情報センター（勇足から7km）

住宅リフォーム費用助成事業

問 昨年も申し込みが多かった方がいるが、どう対応するのか。

答 受付開始は4月中旬からで、先着順で受付します。

27年度は国からの補助金を受けた事業ですが、28、29年度予算は全額を町単独経費で行い、29年度の予算額は3,190万円を計上しています。

29年度で事業は終了しますが、受付の状況など見ながら、制度の見直しを行った上で継続するかどうかを判断していきますが、現時点では決めていません。

本別町営農指導対策協議会

問 営対協が加工用トマトなど新規作物生産に取り組んでいるが、行政の関わりは。

答 加工用トマトは、今まで手作業での収穫でしたが、収穫機械のレンタルが可能となりました。収穫後は、道外工場への出荷から、恵庭市の工場（本年稼働）に出荷するよう経費、販路などを含め、農協や関係機関と連携しながら取り組んでいきます。



加工用トマトの収穫作業

てん菜収穫原料ストックポイント整備事業

問 約336万円が計上されている内容は。

答 てん菜の搬出をスムーズに行うため、堆積場を整備します。事業費の9割を町、農協、北海道糖業（各3割）で補助し、1割は自己負担です。

勇足排水機場委託体制

問 農地などへの浸水を防ぐための排水機場だが、管理体制は。

答 排水機場の機械設備等の保守、点検整備は、町が業者に委託します。

災害時の稼働運転は農林課職員が担当し、必要となる樋門の開閉は、帯広開発建設部から委託されている管理人と連携し対応します。



勇足排水機場

本別高校の教育を考える会

問 陸別・本別線無料通学バス助成として、約530万円増額しているが、利用見込みは。

答 1日1往復の予定で、所要時間は約30分短縮されると想定しています。

利用者は8人を見込み、10人乗りのワゴン車を検討しています。

健康スポーツ週間 事業(仮称)

問 チャレンジデーに代わるスポーツ事業内容は。

答 健康に対する意識向上、より多くの皆さんに気軽に運動に取り組んでもらう機会の提供として、5月29日からの1週間を設定しています。この中で各団体、教育委員会等の行事を計画していきます。



バスケットボールを楽しむ子どもたち(昨年のチャレンジデー)

総括質疑

問 寄付金を元に設立した基金からの繰り入れが、例年より目立っていると感じる。子育て支援、新規就農事業等へ基金の活用が図られているが、今後の基金の活用の考え方は。

答 基金からの繰り入れは、前年比約5千万円増です。農業振興基金では、農業振興人材育成事業等に1,245万円、ふるさとづくり基金では、保

育料軽減事業に2,500万円を繰り入れます。

27年度決算時での基金積立額は約35億2千万円で、標準財政規模の約43億4千万円を目標にしています。しかし、目標を持ちながらも、ただ増やすのではなく、予算の状況を見て活用していく必要があると考えます。

標準財政規模とは…

地方公共団体の標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源(町税、普通交付税、地方譲与税等)の規模です。



後期高齢者医療特別会計

保険料特例軽減見直し

問 被保険者の保険料特例軽減(均等割)の見直しの影響は。

答 世帯所得が低い方は、軽減率は据え置かれますが、平成28年度まで9割軽減該当者(年間保険料4,900円)の方は、7割軽減(同、1万4,900円)に変わります。対象者は、73人(28年度賦課時で試算)です。

同じく8.5割軽減該当者も7割軽減となり、該当者は45人(同)です。この軽減の見直しは、30年度も行われます。

反対討論…阿保議員

①年齢で区切り負担増を押しつける制度、②制度導入以来4回の保険料増、③新年度から特例軽減の打ち切りが始まります。現制度の大幅な改善、本制度に代わる医療保険制度の設立を願い、予算案に反対します。

採決の結果

賛成者9人、反対者1人で原案可決されました。

行政報告

第1回定例会において、町長から行政報告がありました。（抜粋）

第1回 定例会

特別養護老人ホーム・養護老人ホームの在り方に関する基本構想

これまで基本構想に基づき、清流町の小規模多機能型居宅介護事業所「清流の里」と高齢者住宅「清流ハウス8」に、地域密着型特別養護老人ホーム20床を併設し、平成29年度の供用開始を目指してまいりました。

この間、本別町社会福祉協議会と協議を進める一方、介護人材の確保に向けた施策に取り組んでまいりましたが、開設に必要な人員を確保することは難しい状況により建設費など、当初予算への計上はできないものと判断し、見送ることとなりました。

介護サービス基盤の整備に関し、町民の皆さまや本別町健康長寿のまちづくり

会議をはじめ関係団体のご意見もいただきながら、引き続き慎重に検討を進めてまいりたいと考えています。



特別養護老人ホーム

幼保連携型認定こども園の整備状況

3月17日竣工、3月22日に祝福式および町民、関係機関を対象とした内覧会を行いました。（4月1日時点の入園児数は142人）

こども園では、「全園児への完全給食」「一時預かり事業」等を実施し、子育て支援事業もこども園内の子育て支援センターで行うことから、この施設が本町の子育て支援の拠点となるものです。

質の高い就学前教育・保

育を保障する施設となるよう今後も支援を行います。

総合的な介護人材確保対策

新たな取り組みとして、介護福祉士の養成校へ進学する方に対する修学資金の貸付制度、「介護福祉士修学資金貸付事業」の創設について検討を進めてきました。

この制度は、将来介護福祉士として本別町内の介護保険施設等に勤務を志望する方に対して必要な修学資金を貸付けし、介護福祉士の資格取得後、町内の介護保険施設等に一定の期間勤務した場合は、貸付金の全額を償還免除とするものであり、平成29年度より実施したいと考えています。

平成31年4月以降のごみ処理体制

平成30年度で最終処分場の埋立地が満量となることから、新たなごみ処理施設について3町で検討を行いました。

新たな施設については、

現在、十勝環境複合事務組合が運営を行っている「くりにんセンター」に新聞、ダンボールなど一部を除き搬入させていた、たく方向で協議を進めているところで

新たなごみ処理施設が決定次第、ごみ分別手引書の作成、説明会の開催など住民周知の徹底を図ります。



埋立地が満量に近づく銀河クリーンセンター

「本別町新規就農者誘致特別措置に関する条例」を廃止し、新たに「本別町新規就農者等に関する条例」を本定例会に提案します。

従来の新規就農者奨励金等に加え、就農に向けた体験研修者や就農前の農業実習者に対する支援、実習を受け入れる農家への支援制度を創設し、新たな農業の担い手の確保に向けた重要な施策として取り組みたいと考えています。

【制度内容、一部抜粋】

- ①対象者…新規就農者等の認定者及び認定時、原則50歳未満
- ②営農実習補助

就農に必要な生産技術や経営管理方法等の習得に関する補助…月額15万円

- ③体験・研修指導費

新規就農に向けた体験、経験者の受け入れ、基礎的な指導や助言を行う農業者に対する補助…

- 3日以内 1万円
 - 7日以内 2万円
 - 30日以内 5万円
- （複数受入の場合も同額）

本別町新規就農者に対する支援施策

農家戸数の減少が続く中、担い手確保対策については、本町農業の振興、生産基盤の維持における重要な課題となっており、さらなる支援拡充を図るため、

委員会レポート

総務 常任委員会

調査日／平成29年1月25日
○各中学校から本別高校への生徒進学状況について

少子化と多種多様な上級学校への選択自由化により、地元本別高校への進学が減少しています。そのことから、本別高校生の教育環境保持と地元経済の持続的発展を図るため「本別高校の教育を考える会」と連携し、管内中学校を訪問するなどして生徒及び保護者に対し



総務所管事務調査

て本別高校への入学促進に努めています。

平成29年度の2間口確保は極めて厳しい状況ですが、今後も児童生徒数の減少が続く事から支援の輪を全町民に広げ、新たな支援等を検討する必要があります。

まとめ

本別高校の存続は、地元経済への影響はもちろん、町民の皆さんの抛り所であり「本別高校の教育を考える会」の運営方針の再考や新たな支援の策定に努力すべきと思います。

○給食の状況・各学校の食育について

学校給食は、成長期の児童生徒の心身の成長と健康を支える大切な役割を果たすことが重要です。学校給食共同調理場は、800食の調理能力を有し、災害時の対応も可能です。

食育では、栄養教諭、JA青年部等の協力を得ながら取り組みを進めています。

まとめ

「アレルギー対応食」を実施していますが、更に万全を図り事故のないように幾重もの安全策が必要だと思えます。

災害時の対応はスピーディーに対応できるよう、日頃からの考え方や教育委員会全体として連携することが必要なことと思えます。



学校給食試食会

産業厚生 常任委員会

調査日／平成29年1月25日
①入院・外来患者数、事業収益の状況について

入院患者数は、平成28年4月～11月までの期間で比

較すると、対前年比で約14.6%減、9,940人となっております。

おり、外来患者数では、約8.5%減、3万1,643人となっております。

入院収益(同時期の比較)は、対前年比で約9.5%減、2億5,454万7千円となっており、外来収益では、約4.4%減、2億1,823万1千円です。

合計では、4億7,277万8千円となっております。

②診療体制について

現在の診療科目は、内科、外科、耳鼻咽喉科、小児科(月2回)、精神科(月3回)、眼科(月6日)、整形外科(週1回)、脳神経外科(月1回)、皮膚科(月2回)となっております。

③接遇の取り組みについて

接遇については、医療安全研修会・接遇研修会を各年度それぞれ1回開催し、その都度、参加者へのアンケート調査を行っています。

まとめ

入院・外来収益の状況では、前年対比(平成28年4月から11月)で3,670万円の減少となっております。内訳は、入院で2,664万3千円の減(主に内科)、外来で1,005万7千円の減(主に内科、外科、泌尿器科)となっております。

接遇研修会の参加者が平成25年度開催から極端に少なくなっていますが、今後も参加者増に向けた一層の努力とより良い接遇体制を作っていただければと思います。



10科の診療が行われている国保病院(4月現在)

議会日誌

〔 2 月 〕



- 8日 第1回臨時会、議員協議会、総務常任委員会
- 24日 十勝議長会定例会（帯広市）
- 28日 一部事務組合議会定例会（帯広市）

〔 3 月 〕



- 2日 議員協議会
- 3日 議会運営委員会
- 7日 第1回定例会開会、議員協議会、議員会役員会
- 10日 議会運営委員会
- 11日 帯広市本別会（帯広市）
- 14日 本会議（一般質問）、議員協議会、ナイター議会
- 15日 本会議（議案審議）
- 16日 本会議（予算提案）、広報広聴常任委員会
- 17日 予算審査事前勉強会
- 21日 各会計予算審査特別委員会
- 22日 各会計予算審査特別委員会
- 23日 各会計予算審査特別委員会、議員協議会
- 24日 本会議（議案審議）、議会運営委員会
- 27日 池北三町行政事務組合議会定例会（足寄町）
- 30日 広報広聴常任委員会

〔 4 月 〕



- 3日 議会運営委員会、議員協議会、議員会役員会
- 13日 広報広聴常任委員会
- 17日～19日 十勝議長会行政視察研修（茨城県）
- 20日 広報広聴常任委員会、町民懇談会（勇足地区公民館、仙美里地区公民館）
- 21日 総務常任委員会所管事務調査、町民懇談会（ふれあい交流館、美里別地区公民館）
- 24日 産業厚生常任委員会所管事務調査、町民懇談会（健康管理センター、栄町児童館）
- 26日 第2回臨時会、議会運営委員会

コーヒーづれいく



昼間は仕事をしているので
ナイター議会はいいですね



早川浩二さん（上本別）

今回のコーヒーづれいくは、ナイター議회를傍聴された上本別にお住まいの早川浩二さん（45歳）にお話を伺いました。

お仕事は、3月まで上浦幌郵便局、4月からは十勝高島郵便局に勤務されています。釧路市の生まれで、初任地は標津郵便局で現在7局目になるそうです。

傍聴は2回目で、「本別地区連合の役員をしており、また、町民として町政に興味がありました。昼間は仕事をしていますので、ナイター

議会はいいですね」と話していました。

感想を聞きますと「地方議会は進行がスムーズで素晴らしいと思います。一般質問は、町民の意見を聞いて提案していると感じました。今回は、認定子ども園とミニコンビニ誘致の質問に興味がありました」また、「傍聴される方が少ないのでは」とも。

「議会だよりは毎回読んでいてわかりやすいと思う。本別町は、十勝東北部において重要な町、交通の面

も拠点になるのでは。今後も、町民の意見を取り入れて町政に生かしてほしい」と評価や感想をいただきました。

趣味は読書で、お休みの日は面白い物か本を読んでいるそうです。主に実用書が多く、海外の風景写真を見るのも好きだそうです。

お話を聞いていますと、とてもまじめで優しい人柄を感じました。

6月定例会は 6日から予定しています

私たちの住む町の議会です
どなたでも自由に傍聴できます
あなたも傍聴してみませんか

